

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2018 年度
氏名	平石 葉那	指導教員 (主査)	小池 眞規子

論文題目	大学生における心理的特性が SNS 投稿動機と リスク認知・リスク経験に及ぼす影響の検討
------	---

本文概要	
<p>【問題と目的】近年，日本ではスマートフォン及びそれに伴うソーシャルネットワーキング・サービス (Social Networking Service : 以下 SNS) の発展が目覚ましく，社会に定着してきた。しかし同時に，SNS 利用には問題も生じている。総務省(2015)によると，SNS などでのコミュニティサイトを通じた犯罪被害は，1,736 件と過去最多である。荻野 (2014) の先行研究も加味すると，SNS の特性を理解して使用しておらず，相手の気持ちを考えた更新・発言をしていないと述べている。つまり，SNS 上でのトラブルが起こるリスク認知はあるが，結果として SNS 上に投稿を行うことが SNS 上でのトラブルの一端を担っていると考えられる。SNS への投稿動機と関連が考えられるものとして，高橋 (2014) は，「いいね」やコメント等の投稿に対するリアクションを指摘している。自分の投稿に対する他者からの反応により，承認や賞賛を得たいという「承認欲求」が SNS 上に投稿を行う動機の一因になっていると考えられる。さらに，吉野 (2008) は，SNS 利用と自己呈示の間に関連が見られると述べており，自己を自分自身で自己演出を行い，自己アピールを行う自己呈示と SNS の投稿にも関連のあると推察される。吉原 (2016) の研究では，日常生活満足度が低いほど SNS 上でネガティブな自己開示を行いやすいという結果が得られた。以上から，自己の満足感を満たすための 1 つの手段として，他者からの賞賛が得やすく，また自己演出もしやすい SNS で投稿をしている人々がいると考えられる。そのため SNS の投稿動機と，その一因と考えられる承認欲求や理想自己と現実自己の乖離との検討及び SNS 上でのリスク認知・リスク行動との検討を行っていくことが，SNS 上での問題解決の一助になると推察される。</p> <p>【方法】大学生 316 名に質問紙調査を実施した。①フェイスシート：性別,年齢,利用 SNS ツール,最も利用している SNS ツール②SNS の投稿動機 (佐々木ら,2015)③SNS 投稿頻度(佐々木ら,2015)④日本語版 MLAM 承認欲求尺度(植田・吉森, 1990)⑤自己呈示規範内在化尺度(吉田・浦,2003a)⑥満たされない自己尺度(藤・湯川, 2005)⑦SNS のにおけるリスク経験とリスク認知(荻野, 2015), について回答を求めた。</p> <p>【結果と考察】SNS の投稿動機 21 項目を Ward 法によるクラスター分析を行った結果，3 つのクラスターを得た。第 1 クラスターは 127 名，第 2 クラスターは 43 名，第 3 クラスターは 76 名の調査対象が含まれていた。得られた 3 つのクラスターを独立変数，「吐き出したい」「共有したい」「見てほしい」「知ってほしい」を従属変数とした一元配置分散分析を行った。第 1 クラスターは“自己明確型”，第 2 クラスター “自己発散型”，第 3 クラスターは“自己顕示型”と命名した。心理的特性各尺度が，SNS の投稿頻度，リスク経験，リスク認知に影響するというモデルを作成し，投稿動機 3 類型で多母集団同時分析のパス解析を行った。パス係数は自由推定されるモデルを形成したところ，適合度が良好であったため ($\chi^2(3) = .999, n.s., GFI=.999, AGFI=.967, CFI=1.000, RMSEA=.000$)，このモデルを採用した。これらの結果から，一言に SNS 投稿といっても SNS に投稿を行う動機は異なり，投稿動機によって，何が要因となって投稿を行い，リスク認知・リスク経験に影響を与えているかが異なるということが明らかとなった。大学生本人が自分自身の心理的特性を介して，投稿特性を理解することで，SNS 上で生ずるトラブルでの予防的な介入への一助となると考えられる。</p>	